

第3章 区域計画

●「区域計画」の推進について

(1)「区域計画」の構成と取組主体

区域計画は、「地区別計画」の取組支援と他地区に取組を広げるきっかけづくり等を推進する「地区支援目標」と、重点的なテーマに沿った事業ベースの具体的な取組をまとめた「重点テーマと目標」の2つで構成されています

この「地区支援目標」と「重点テーマと目標」の実現に向け、区役所、区社会福祉協議会及び地域ケアプラザが、地域や関係団体・事業者などと協働で取り組んでいきます。

(2) 地区支援目標

「地区支援目標」は、各地区で展開されている「地区別計画」を中心とした取組について、その充実や実現に向けて、助言等を行うとともに各種助成制度などの活用により、支援を行います。

また、「地区別計画推進策定委員会」や「地区支援チーム」における活動を通じて、各地区の取組を把握し、その手法やノウハウを蓄積して効果的に地域に情報提供することで、他地区にその取組を広げるとともに、取組の支援を行ないます。

目標1	地域での「つながり」づくりの取組を支援し、ともに推進しながら、他の地域へも取組を広げていきます！<つながり>
目標2	多くの人が地域で活躍でき、地域活動が広がっていくことを目指し、地区の支援やコーディネートを行います！<人材・担い手>
目標3	より身近な地域で活動できるよう、地域活動における「機会」「場」に関するノウハウを共有し、活用します！<機会・場>
目標4	地域情報を共有・活用できる体制づくりをすすめます！<情報>
目標5	地域の取組を共有するとともに、活動の広がりを意識しながら継続して取り組めるよう、支援を行います！<安全・安心・健康>

(3) 区域計画の重点テーマと目標

「重点テーマと目標」は、「区民アンケート」、「分野別・団体別グループインタビュー」や、各地区の「地区別計画推進策定委員会」などでの意見を参考に、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」の提言に基づき、区域での取組が必要と考えられる6テーマを選定しました。

また、「目標」や「主な取組」に関しては、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザを中心に検討を進め、それぞれのテーマの必要性に関して、「背景と取組の方向性」「これまでの取組」「期待されること・求められていること」などを経て、項目を選定しました。

テーマ1	日常的な見守り体制づくりに関する取組	テーマ4	子ども・子育てに関する取組
テーマ2	認知症に関する取組	テーマ5	災害時に支援が必要な方への取組
テーマ3	障がい児・障がい者に関する取組	テーマ6	健康づくりに関する取組

(4)「みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会」について

第1期、第2期計画に引き続き、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会」が、地区別計画を含めた第3期計画での取組状況の把握や振り返りを行っています。

委員は、学識経験者、福祉保健活動団体等の代表などで構成しています。

<平成28年度の開催状況>

【第1回】平成28年7月26日

(内容)平成28年度推進スケジュールについて、重点取組について など

【第2回】平成29年3月22日

(内容)平成28年度の区域計画・地区別計画の振り返りについて など

● 6つの重点テーマの推進状況

(1) 日常的な見守り体制づくりに関する取組

■新聞販売店向け見守り・気づき研修会

日常的に地域を巡回する機会のある新聞販売員の方々を対象に、高齢者や子育て中の世帯などに異変を感じた際の対応方法などを学ぶ「見守り・気づき研修」を9月14日に実施しました。孤立死や認知症による徘徊、児童虐待などのケースの予兆を把握するとともに早期発見に結び付けることを目指しています。研修会では、見守



▲ 認知症サポーター養成講座の様子

りのポイント、児童虐待が疑われる時の対応についての講義と、認知症の理解を深めるため「認知症サポーター養成講座」を区内キャラバン・メイトの協力で実施しました。区内新聞販売店から48名が参加し、寸劇などを通じて実際の対応を学びました。

■住民支え合いマップ

ご近所の見守りの仕組みづくりとして、「住民支え合いマップ」に取り組みました。「マップ」づくりとは、地図上に地域情報を落とし込み、解決すべき地域の課題や実状を誰の目にも見えるようにする取組のことです。地域の方々の「動き」や「関わり」を「見える化」することが、この「マップ」の特徴です。



▲ 「マップ」づくりの様子

今年度は、みどり台自治会（山下地区）、十日市場団地第2自治会（十日市場団地地区）、杉山原自治会（長津田地区）、下長津田自治会（長津田地区）の4か所で実施しました。今後は、「マップ」づくりの過程で見えてきた課題に対して、地域住民の力、専門機関の協力で解決することを目的とし、さらに取組を進めていきます。

(2) 認知症に関する取組

■認知症普及啓発講演会

「認知症になってもその人らしく安心して暮らせるまち 緑区」をテーマに緑区医師会との共催による講演会・シンポジウムを7月30日に実施しました。第1部は日本医科大学付属病院上田諭医師を講師に迎えた認知症講演会「治さなくてよい認知症～薬より生活の張り合いを～」、第2部は区内で活動する民生委員・児童委員や地域包括支援センター職員、事業所・施設職員などによるシンポジウム「知ってトクする認知症の人の気持ち」を行いました。



▲ シンポジウムの様子

村井祐一氏をコーディネーターに迎え、認知症の人の気持ちを理解し、地域での生活を支えていくためのそれぞれの役割について意見交換をしました。延べ293人の参加がありました。

■認知症キャラバン・メイトのつどい・勉強会

区内で活動する認知症キャラバン・メイトのつどいを実施しました。第1回は5月31日に「認知症サポーター養成講座」等の地域での活動を促進していくため、各地域での活動状況や工夫点など



▲ つどいの様子

第3章 区域計画

についての情報交換や交流を行いました。また、第2回は11月29日に総合保健医療センターの川越康子医師を講師に迎え、「認知症の医療について」をテーマに勉強会を開催し、46人が参加しました。

(3) 障がい児・障がい者に関する取組

■みどりぶんぶんマルシェ

区民の障害に対する理解を深めるため、障害者通所施設が作成したドキュメント映画の上映や区内事業所の紹介（パネル展示、障害者が日中活動で作成した自主製品販売「みどりぶんぶんマルシェ」を



5月30日に実施しました。区内13事業所が参加、約500人が来場し、盛況でした。その後、区内の障害者施設「ぶかぶか」で働く人たちと、地域の人たちが一緒に作った芝居が完成するまでのドキュメント映画「ぶかぶか」の上映会が行われ、上映会後には、ぶかぶかの代表者と映画監督、出演者によるトークショーを開催しました。

▲ 当日の様子

■地区リハビリ教室活動発表会・交流会

地区リハビリ教室等では、脳血管疾患等による身体や言語に障害のある方が地域でプログラムを楽しみながらリハビリや交流を行っています。当事者やボランティアには、地域のネットワークを生かし、長年かけて培ってきた取組や工夫があります。このことを関係者が共有し、活動を継続するためのヒントを得ることを目的に、地区リハビリ教室・自主活動団体活動発表会を6月17日に実施しました。当日は、区内9か所の地区リハビリ教室等が活動内容や取組を発表し、交流会を行いました。また、活動を広く区民や支援者に周知し参加をすすめるため、紹介マップを作成しました。



▲ 発表会の様子

■障害者週間キャンペーン「みんないっしょならもっとたのしい!み・ど・り!」

緑区社会福祉協議会・みどり障がい児者支援ネットワークでは、障害者週間（12月3日～9日）に関連して、「みんないっしょならもっとたのしい!み・ど・り!」を実施しました。

このキャンペーンは、ネットワークに参加している団体の活動を多くの方に知っていただき、障がいのあるなしに関係なく、だれもが安心して楽しく生活できる、そのことを地域住民のみんなで考えようと今回初めて行いました。

キャンペーン期間中には、区内の障がい児者に関わる施設や団体たくさんのイベントを開催しました。このキャンペーンを通じてネットワークの輪が広がり、障がいのある方とそのご家族が「緑区に住んでよかった」と感じ、みんな一緒ならもっと楽しい地域になることを目指しています。



(4) 子ども・子育てに関する取組

■みどり子育て支援連絡会・交流会

区内の子育て環境の現状の共有と子育て支援が目指す姿を検討していく「みどり子育て支援連絡会」を開催しています。

子育て支援の活性化を図ることを目的に、「全体連絡会」2回と「地区別連絡会」を2回行いました。「地区別連絡会」は、各地区の活動情報を掘り下げながら話し合い、地域情報を関連させて現状把握と分析を進め、子育て環境の課題の整理を行ってきました。

▲ 連絡会の様子

次年度は、具体的な活動として、身近なところで、親子で集える場所が増えるよう進めていきます。また、「みどり子育て支援交流会」は、子育てに関わる関係機関や団体の交流の場として、今年度は、情報交換の場を開催しました。地域子育て支援拠点「いっぽ」、区社会福祉協議会、区役所が事務局として進めています。



■地域主体の子育て支援の取組支援

第1子の0歳児とその保護者を対象に地域ごとに毎月行っている「赤ちゃん教室」には、地域の子育て支援に携わる方にも協力をお願いし、地域の親子と知り合う機会のひとつになっています。

例えば今年度は、山下地区で実施している「赤ちゃん教室」卒業後、親子で集う場所が少ないとの参加者の声を受け、地域の保健活動推進員が中心となって、定期的集まれる場が新たに生まれました。その他の地域でも子育て支援を行っている方々と区役所が連携して地域での支援が充実するよう取り組んでいます。



▲ 赤ちゃんサロン 「山下ハイハイオカピ」

■保育園の取組（赤ちゃんの駅・離乳食ランチ交流事業・園庭開放の拡充）

- ・緑区では、乳幼児連れでの外出を促進するため、市立保育所等に「赤ちゃんの駅」を設置しました。授乳・調乳・オムツ替え・休憩等ができ、子育ての心配事や悩みの相談に乗ったり、外出時のアドバイスもお伝えしています。平成29年3月現在、区内公立4園と民間9園で実施しています。

- ・区内の市立保育所では、離乳期の子どもと保護者が、保育園の子どもたちと一緒に給食を食べる「離乳食ランチ交流事業」を7月から実施しています。離乳食についての悩みを気軽に相談したり、子育てに関する情報を得る交流の場にもなっています。

- ・園庭開放等を実施する園同士が情報交換を行い、連携強化や事業内容の充実を図る「子育て支援事業施設連絡会」を3回実施しました。

(5) 災害時に支援が必要な方への取組

■災害時要援護者支援事業連絡会

緑区災害時要援護者支援事業実務者連絡会を6月2日に実施しました。竹山小学校地域防災拠点と長津田小学校地域防災拠点の取組について報告があり、全体で共有しました。また、東京ボランティア・市民活動センターの加納佑一氏から、熊本地震の経験をいまえて「地域で進める要援護者支援の取組み～避難生活で災害関連死をなくすために～」のテーマで講話を行いました。

■緑区防災計画「風水害対策編」の改訂

風水害時における行政や地域、区民が実施すべき事項を明らかにし、区における危機管理体制の充実・強化を図り、区民の安全・安心を確保することを目的に、緑区防災計画「風水害対策編」の見直しを行いました。見直しにあたっては、各専門分野に精通している団体などから組織される「緑区災害対策連絡協議会」と「専門部会」において検討を行い、7月から改訂版で運用を開始しています。

■災害ボランティアコーディネーター養成研修・訓練



▲ コーディネート体験の様子

大規模災害発生時にボランティアセンターを運営するボランティアスタッフの育成のために、市社協ボランティアセンターに講師を依頼し、区災害ボランティアセンターの機能について知ってもらうための「災害ボランティア養成講座」を開催しました。

また12月にはハーモニーみどりまつりにて「災害ボランティアセンターコーディネート体験」を行い、実際災害が起きた時にコーディネートをスムーズに行うための訓練を実施しました。

(6) 健康づくりに関する取組

■食育講演会

今年度は子どもの食生活に焦点をあて、保護者や子どもを取り巻く大人、子ども等に対して「食」に関する知識や「食」を選ぶ力を身につけてもらうことを目的に、食育月間に合わせて講演会と啓発イベントを6月11日に実施しました。

小学校での食育の取組を紹介する展示や、かむ力のチェック、フードモデルを使用した簡易食事診断、食生活等改善推進員と協働した野菜料理（小学校給食で人気の野菜料理）の試食提供、野菜に関連したミニゲーム、保健活動推進員による健康チェックを行いました。また、JAと協力し、地場野菜の販売、食関連企業として、ヤクルトが腸内細菌ミニシアターを実施しました。さらに、管理栄養士の赤堀博美氏を講師に「子どもの心と脳（からだ）を育む食生活」をテーマに講演会を行い、延べ1150人の参加がありました。



▲ イベントの様子

■緑区シニア元気づくり活動発表会

地域の多様な介護予防活動を区民に紹介し、グループ活動を広めていくことを目的に「緑区シニア元気づくり活動発表会～きらり素敵なあの子の元気のヒ・ケ・ツ～」を12月6日に実施しました。八森淳医師をコーディネーターに迎え、「シニア元気づくり活動の意義と効果について」の講話、及び団体による活動発表を行いました。区内7か所の地域包括支援センター担当地区から各1団体がそれぞれの特色を生かして活動を報告しました。262人の方が来場しました。



緑区シニア元気づくり活動発表会
きらり素敵なあの子の 元気のヒ・ケ・ツ
平成28年12月8日(木) 緑公会堂

▲ 発表者の皆さん